

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **環境管理センター**

部局長名： **川本 克也**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
自己評価	
①-1 目標 1. 学生及び教職員に対して、サステイナブル・キャンパスを目指した環境と安全に関する教育を実施する。 2. 学生に対しての環境問題の啓発活動を行う。 3. 各部局における環境教育との連携を図り、教育活動を充実させる。	1. 岡山大学環境報告書及び同報告書の英文付ポスター及びダイジェスト版を発行し啓発を行った。新入生に対して「環境安全ガイド」の発行・配布した。 教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」を後期に開講し、学生自らが環境マネジメントを理解し、行動するための知的バックグラウンドおよびサステイナブル・キャンパスを目指した先端技術が理解できる素養を教授した(15回、受講者108名)。独自に行った授業評価アンケート(5段階)の結果は、4.2となった。 2. サステイナブルセミナーを3回開催し、延べ参加者数は80名であった。 3. 理系学部の実験・実習を始める学生に対して、出前講義を実施した(13回、受講者数延べ622名)。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 前年度まで実施してきた教育・啓発を継続するとともに、目標1に関連して、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」において独自の授業評価アンケート(5段階)を行い、4.0以上を目指す。また、目標2に関連して、サステイナブル・セミナーへの延べ参加者数100名以上を目指す。	
②研究領域	
自己評価	
②-1 目標 1. 科学研究費及び共同研究費を始め、競争的資金の獲得に努め、研究基盤の充実を図る。	1. 文部科学省科学研究費補助金、環境省環境研究総合推進費や外部資金の獲得、外部との共同研究も行われ、平成27年度も継続を含め外部資金を獲得し、研究基盤の充実を図った。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 科学研究費及びその他競争的資金について、前年度以上の件数をもって申請を行い、獲得を図る。	
③社会貢献(診療を含む)領域	
自己評価	
③-1 目標 1. 一般市民が参加できる環境・安全に関する公開講演会等を開催する。 2. グローバルな課題であるエネルギー問題、環境保全、環境改善等に関する技術や知見を広く社会に還元する方策を推進する。 3. 国や地域の行政に関わる審議会や専門委員会に参画し、社会貢献を果たす。	1. 環境管理センター主催の公開講演会「地球温暖化と気象変動がかかわるリスク」を開催し、3名の演者(うち2名は学外者)から一般市民をはじめ、教職員及び学生に対して、地球温暖化に伴う気候変動リスク、豪雨による地盤災害への対策また蚊や蚊媒介性感染症についての知識を教授した。113名の参加(うち学外者89名)があり、市民及び大学構成員とが一緒に学ぶ機会を提供した。アンケートにより満足度を評価し、結果は4.1であった。また、今年度も、センターとして公開講座「環境と人間活動の調和を追求する」を開講した。参加人数は31名で昨年度より増加し、アンケートからも、満足したという評価が得られた。 2. 化学物質管理、温暖化対策、環境マネジメント及び環境報告書に関する情報を提供した。その他、廃棄物系バイオマスからのエネルギー利用技術に関する講演会開催等で広く社会に還元した。また、環境報告書を通じて学内外との環境コミュニケーションを推進した。 3. 国の有害廃棄物処理関連の各種委員会の委員長や委員、岡山県、岡山市等の審議会や委員会等の委員、また大学等環境安全協議会、UNEP関連等の委員を務め、社会貢献を行った。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 前年度まで実施した社会貢献活動を継続するとともに、環境管理センター公開講演会への一般市民の参加者数100名以上を目指すとともに、アンケート(5段階)を行い、満足度を評価し、4.0以上を目指す。	
④センター業務	
自己評価	
④-1 目標 1. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理に関する監査、化学物質管理等の講習会を継続実施する。	1. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理に関する監査を実施した。書面審査(全部局)及び現地調査(3部局)を行った。 2. 化学物質・水質管理講習会を4回開催し、水質管理の推進を図った。 3. 環境マネジメント委員会にて、環境目的・目標の点検評価、環境報告書の作成、地球温暖化対策・エネルギー管理、水質管理を含む化学物質管理、グリーン購入等について提案することにより、環境マネジメントを推進した。1.の講習会以外に地球温暖化対策説明会、グリーン調達方針説明会、フロン排出抑制法に関する説明会を開催した。 4. 「環境報告書2015」を企画、作成し、9月に公表した。ポスター及びダイジェスト版は英文を追加した日英混合版としている。 5. 実験系廃棄物管理の適正管理を徹底するため、廃液処理技術指導員講習会を2回開催した。その他3.に示した講習会を開催した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 講習会について、前年度以上の開催回数を目指す。	
【総括記述欄】	
教育領域に関しては、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」及び「サステイナブル・セミナー」を開講し、環境に関する教育及び啓発活動を行った。後者については、参加者数の目標には及ばなかったが、内容に関し、参加者からの好評を得た。研究領域に関しては、他の領域の課題も多いなかで各教員の努力が認められるが、今後更にセンターとしての検討課題の取組みが望まれる。社会貢献に関しては、公開講演会「地球温暖化と気候変動が関わるリスク」を開催し、社会的関心の高いテーマに関し市民、教職員及び学生が一体となって学ぶ場を提供することとなり、よい評価の得られた企画であった。また、公開講座「岡山大学の環境活動を知る」の開講の他に、国、自治体及び公的団体等における様々な審議会委員等を務めることより、目標を十分達成したと評価する。センター業務に関しては、環境マネジメント委員会の各専門部会の部会長及び委員を務め、環境マネジメントの進展を図ったことから評価されるものと考えている。経営管理の強化に資する大学機能強化戦略経費も要求した。次年度は、化学物質管理及び排水管理について更に周知徹底するとともに、使用者の利便性を考慮した管理手法の確立と推進が必要と考える。さらに、実質的な省資源化対策、地球温暖化防止対策及び省エネルギー対策の推進に関して、更なる成果が得られるように努力する所存である。	